

# 中国大学生1万2038人の心の叫び

## ～戦後70年・これからの日中関係を考える～

国際交流研究所 大森和夫・弘子 編著

### 中国172大学・1万2038人の心の叫び！

テーマはすばり「戦後70年・これからの日中関係を考える」。国際交流研究所の大森和夫・弘子夫妻が行った大規模アンケート調査に答えた中国172大学・1万2038人の“心の叫び”を一挙収録！

### 未来志向で「偏見を捨て、日本のいい面を学ぶべき」と

「日本に対する偏見を捨て、日本のいい面を学ぶべき」「自分の目で見て、自分の耳で聞いて、自分で考えることが大事」「心で感じた日本文化を、中国の人たちに伝え、誤解を解消したい」……。

アンケートから見えてきたのは、中国の学生たち（日本語科）の中には日本政府の「歴史認識」に強い批判と不満を抱きながらも、日中の明るい未来を展望している人が多かったこと。日中関係を良くするために、「未来志向」の答えが数多く寄せられた。

### 戦後70年一耳を傾けたい学生たちの「本音」がここに！

一方で、「友好の進展を願う彼らの前に、依然、『歴史認識問題』の『壁』が立ちはだかっている」ことも浮き彫りに……。編著者の大森夫妻は、戦後70年の節目にあたり、本書を通じて「中国の学生たちの『対日観』を聞き出して、日本側に伝えることが、日中間の相互理解に役立つのでは……」「アンケートに示された数々の『本音』に耳を傾けたい」と熱く語る。



### 編著者略歴



**大森和夫** 1940年東京都生まれ。東京都・九段高校卒。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。朝日新聞記者（大分支局、山口支局、福岡総局、政治部、編集委員）を経て、1989年1月、国際交流研究所を開設。

**大森弘子** 1940年京都府生まれ。京都府・西舞鶴高校卒。京都女子大学短期大学部家政学科卒。京都府・漁家生活改良普及員（地方公務員・3年間）。「日本語教材『日本』」各版の編集長

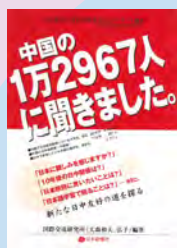
ご注文は、日本僑報社 e-shop（中国研究書店）をご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。（トーハン 日販 その他 取次コード：5752）

	中国の大学生1万2038人の心の叫び ISBN 978-4-86185-188-9 発行日：2015年6月30日 四六判 200頁 並製 定価：本体1800円＋税	注文部数  部（送料無料）	<b>ご注文 / 番線印</b>  ご注文の方は、 注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください
	日本僑報社 e-shop <a href="http://duan.jp">http://duan.jp</a>	送信 FAX <b>03-5956-2809</b>	

# 大森和夫・弘子ご夫妻の 10 冊 (2002-2015)

詳しくは中国研究書店 <http://duan.jp/item/oomori.html>

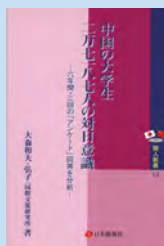
日本と仲良く、  
中国若者の思いが満載！



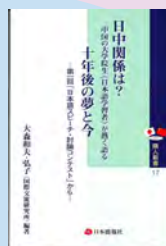
① 2002



② 2004



③ 2005



④ 2006



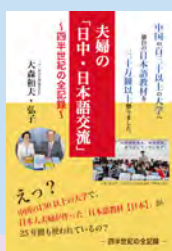
⑤ 2007



⑥ 2010



⑦ 2012



⑧ 2013



⑨ 2014



⑩ 2015



作文集を読みながら、草の根の相互交流がいかに大切か、を改めて痛感する。『天声人語』より (2004.12.24)

## 天声人語

2004年12月24日 金曜日

2004年12月24日 金曜日

### 83 日中は草の根交流を

中国の女子大生の作文である。離婚した父と平穏に暮らしていたが、15歳のとき、父が日本人女性と再婚した。

結婚式の日には、シロという犬を連れて家出した。「母と言いたくなければおばと呼んでもいい」と父は言ったが、冷たく拒否した。継母には自分の持ち物やシロに触れさせなかった。

音楽学院の入試をひかえて大病に

かかり入院した。継母は自分の血を輸血してくれた。意識が回復し、疲れた笑顔の彼女を見て心が大きく動いた。音楽学院に行くとき、シロの世話を彼女に託した。継母は涙を流した。冬休みに帰ったら、お母さんと呼ぼうと心に決めた。

冬休みに帰宅しても「お母さん」はいなかった。シロを連れて娘を迎えに出たとき、急に走り出したシロを追いかけ、車にはねられて

亡くなった。残された日記には、その日を楽しみにしていたことが書かれていた。「お母さんの遺志を引き継いで中日のかけ橋になりますよ」と作文は結ぶ。

大森和夫・弘子編著『中国の大学生』発 日本語メッセージ (日本僑報社) に収められた一編だ。中国で日本語を学ぶことには、困難も伴う。反日感情がくすぶっている。「反日」を増幅する事件もしばしば

起きる。しかし、現実の日本人や日本文化に接することによって「反日」を克服していくさまを描く作文が多い。先の女子大生の物語は、象徴的な例だ。

「中国に親しみを感ずる日本人が激減している」という調査結果が先日、報じられた。作文集を読みながら、草の根の相互交流がいかに大切か、を改めて痛感する。

※1冊よりご注文戴けます。セット(上記、①～⑩の10冊)でのご注文は大歓迎です。

※より多くの読者に大森和夫・弘子ご夫妻の素晴らしい活動と中国の若者の思いを知って戴くため、ぜひとも図書館に推薦お願いします。

※送料について、個人でご購入の場合、全て無料とします。会社など公費でご購入の場合は、一回のご注文につき300円です。

※ご注文先、Tel 03-5956-2808 Fax03-5956-2809 info@duan.jp